

カトリック

広島教区報

No. 86

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
原田豊己神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区鞆町 4-42
広島司教館内
TEL (082) 221-6017

前田万葉司教叙階式
二〇一一年 平和行事
東日本大震災支援関連記事
地区情報・J-CARM・青少年・ひと粒

一〇五面
六面
七面
八〇十面

トマス・アクィナス前田万葉司教叙階式



司祭の皆さんをはじめ、修道者、信徒、それも老若男女一緒に行きたいと思いません。

新涼や新しき網おろしまし

〜教区長就任に当たって〜

トマス・アクィナス

前田万葉司教

私の司教叙階式を準備し、集まり、祈ってくださいました。また、自ら主司式して、私のために祈り、牧杖のバトンタッチをしてくださった三末篤實司教様、ありがとうございます。そして二十六年間、本当にご苦勞様でした。当日は、秋日の天気にも恵まれ、すべて感謝です。

感謝です 神さま皆さま 秋日さま

これからも確かに、三末司教様が続けてきた広島教区の目標、「平和の使徒となろう」を継続してまいります。私の司教紋章にもその気持ちを込めさせていただきました。キリストの平和と救いの網で、きょうどうして、育て合いながら漁を、福音宣教をしてまいります。もちろんそれは教区で働く司祭の皆さんをはじめ、修道者、信徒、それも老若男女一緒に行きたいと思いません。



新涼や

新しき網

おろしまし



心機一転、新涼のような新しい福音宣教、新しい網をおろしてみましよう。定置網や仕掛け網にも、状況によっていろんな漁法があります。教会の規模や地域性など、状況によって宣教方法も違ってくるでしょう。

いずれにせよ、あのペトロの不思議な大漁を聖霊に祈りながら、共に頑張ります。

「仕えられるためではなく仕えるために」という銘柄の網であれば大丈夫です。聖霊が降り、仕え合う仕合わせ、キリストの平和を実現できるでしょう。

大切にしたい、生かしたい、仕え合う「仕合わせ」こそが、キリストの平和であり、「世界平和」「キリストの救い」につながると思えます。皆さんどうぞよろしくお願いたします。

司教紋章の説明



「お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」(司祭叙階時決意)のイメージを上奥にあしらひ、広島司教としての召命を再決意。手前の平和と聖霊のシンボルである鳩から下へ広がる黄金色の聖霊には、広島教区の目標「平和の使徒 (Pacis Apostolus) となろう」を三つの優先課題、Pax (平和)、Collaboratio (きょうどう)、Formatio (養成) によって不思議な大漁のように実現できますようにと祈りを込める。最下部の帯の「NON MINISTRARI SED MINISTRARE (仕えられるためではなく、仕えるために)」は、平和を実現するためのモットーである。

**司教叙階式に司教・司祭
団百五十人以上、二千を
超える人々が集まる**

穏やかな晴天に恵まれた九月二十三日、二千を超える参列者が広島カテドラル

世界平和記念聖堂に集い、前田万葉司教の叙階式を感謝の祈りと共に盛大に祝った。主司式は三末篤實司教。

来賓として、ローマ教皇庁大使館からフランシスコ・エスカランテ・モリーナ臨時代理大使、フィリピン・インファンタ教区からローランド・ティローナ司教、オレット神父、デモス

神父、釜山教区から曹昱鐘チヨウウツシヨウ神父、広島県宗教者連盟、



三末司教と前田司教 平和の挨拶

前田司教の兄弟姉妹・親戚の方々の出席と共に、日本の全教区から十八人の司教、長崎教区からの司祭団や多数の信徒・修道者、前田司教と関係のある全国の方々、そして多くの広島教区民が集った。

会場は、大混雑を想定し、大聖堂・地下聖堂・エリザベト音楽大学セシリアホールを準備したため特に混雑はなかった。大聖堂以外は、モニターによる映像中継に合わせて祈った。また、その映像はインターネットで世界に向けて配信された。

午後一時から始まった叙階式は滞りなく進んだ。ミサ説教は高見三明大司教(長崎大教区)、お祝いの言

葉は、司祭代表(広島地区担当)・修道者代表(岡山・鳥取地区担当)、信徒代表(山口・島根地区担当)、在住外国人代表、青年代表がそれぞれ行った。二時間半後、大聖堂入口に、多くの出席者の笑顔と拍手に囲まれた穏やかな顔の前田司教が立った。

叙階式後、カトリック会館一階・マリアホール・屋外テントの下で、祝賀パーティーが終始にぎやかに行われた。

司教叙階

おめでとつございます

広島司教区名誉司教

ヨゼフ三末篤實司教

秋晴れの爽やかな日差しの中、広島教区長トマス・

アクイナス前田万葉司教の叙階式を皆さまと盛大に執り行うことができました。

叙階式の準備のためにご支援、ご協力を賜りましたことに、心から感謝申し上げます。

今後は、透析を受けながら翠町教会に居住し、小教区のミサの協力もいたしま



連願中(床にひれ伏す前田司教)

す。これからも「神の国」の完成のために働いて参ります。

皆様のうえに神の祝福をお祈りいたします。

前田司教様、叙階

おめでとつございます

広島司教区司教総代理

斉藤 真仁神父

三末司教様には早く後任が決まり、安心してご自分の暮らしができればと思っております。神様のご配慮で、すばらしい新司教様を迎えることができ、感謝しています。

前田司教様は句をお詠みになられ、中央協の会報で拝見したことがあります。短い文にご自分の思いを表

現される才能には感銘します。短文にその時の感じたことを見事にまとめ、表現されています。

これから私たち信者の先頭に立って、この歌のように私たちをまとめ、広島教区の信者の使命を証しできるようにご指導をお願いいたします。

新司教様の紋章にはその使命が掲げてありますので、私たちはその紋章を見るたび、各自の働きを確かめながら歩むことができます。



聖霊の息吹に励まされ、共に平和の実現のために働きたいと思えます。どうかよろしくお願ひします。

叙階式のお祝いによせて

インファンタ司教区

ローランド・J・トゥリア・

ティローナ司教

インファンタ教区のジュリオ・ザビエル・ランバイエン名誉司教、司祭団、信徒を代表し、広島教区司教に任命された神聖な儀式にあたって、喜びと熱い祈りに満ちたお祝いの言葉を述べさせていただきます。

広島教区と釜山教区、そしてインファンタ教区は、何年にもわたり、祈りや数々の交流プログラム、会議、分ちあいを通して姉妹教区の絆を保ち、神の国におけるアジア地域の教会の

一員として友情を深め、連帯して参りました。

私たちの司教様への祈りと期待が、広島教区での司教としての司牧活動を意義深いものとし、釜山教区、インファンタ教区との絆を継続するものと確信しております。

さらに、前任者のヨゼフ三末篤實司教様におかれましては、姉妹教区の絆を深めるためのたゆまないご努力、いつも友愛の心を寄せられたこと、特にインファンタ教区へご援助くださったことに深く感謝しあげます。二〇〇四年にインファンタで起きた大洪水の際にいただいた広島教区からの援助は決して忘れるこ



前田司教（叙階式後、聖堂前で）



三末司教とティローナ司教

とがありません。

今一度、前田司教様の新しい司牧活動へ心からのお祝いを述べさせていただきますと共に、インファンタ教区へご訪問くださるよう、お招き申しあげます。

マブハイ（万歳）、前田司教様！マブハイ！キリストのうち。

前田万葉司教様の叙階式のお祝いによせて

釜山司教区

パウロ黄 哲洙 司教

広島教区の司祭の方々、信者の皆様、広島教区に新たに生まれになった前田

万葉司教様の叙階を、心からお慶び申しあげます。数年前のわたし自身の叙階を思い出しております。

その折にはたくさんの方々からお祝いのご挨拶を頂きましたが、むしろ、わたし個人としましては、重たい負担を感じました。そのお祝いの言葉が『これから教会のために、十字架をより背負ってください』というように思えたからです。なぜなら、司教職とは単に個人的な要請や要求によつて与えられたものではなく、教会によつて与えられたものであり、このような教会からの呼びかけと神様のみ旨に従って、決して軽くない司教職に応えられた司教様に尊敬を申しあげます。

広島教区と釜山教区は、姉妹教区として特別な縁を結び、もう十年を過ごしています。

姉妹教区である広島教区には、釜山教区の司祭たちが、国境を乗り越えて神様の愛を伝えさせていただき、また、彼らに広島教区の卓越な信仰精神を体験す

るように配慮してください。これからも、釜山教区は新司教様と共に両教区の姉妹の縁を大切にし、より発展させていくために努力を尽くします。

前田万葉司教様と広島教区のすべての方々、特に三末司教様にご挨拶を申しあげつつ、叙階のお祝いのご挨拶とかえさせていただきます。

教区共同体を導いていかれる司教様の道に主が共におられ、お導きくださいますようにお祈り致します。



叙階式当日、ご来賓の方へ突撃インタビューしてきました。

①多川 皐月(せつき)さん
前田司教様のお姉様(十一人兄弟の長女)



「彼は小学校を卒業したらずぐ小神学校に行ったので、小学校六年生までしか一緒に住んでいないのです。」

多川さんは長い間、世界中を回って仕事をされ、やっと日本に戻ることになり、今まで縁がなかった広島に住むことになったそうです。不安な中、今年七月五日から広島に住み始めた同じ頃、司教叙階の一報を聞き大喜びされたようです。

「司教叙階のニュースは、誰よりも私が一番喜んだと思います。戦前、父は神学

校に行っていました。母はシスターになりました。父は戦争で神学校に行けなくなり教師になりましたが、自分たちの夢を子供たちに託していたようでした。」

「小さい頃から、毎日朝晩、家族全員で祈っていました。『神父様になれますように』『司教様になれますように』と。だから、父は今、天国からすごく喜んでいと思います。」

②前田 征臣(ゆきみ)さん
神戸在住のいとこ



「子供の頃の彼は、ものすごくおとなしい子でした。」

自分も神学校に行っていました。自分が神学校をやめた後に入りました。「とにかく、オレの言うことは、よく聞く子でしたよ。」

③小川 益見(ますみ)さん
宝亀教会の信徒の方



宝亀教会の主任司祭当時、宝亀教会で三末司教様の叙階(一九八五年)のお祝いを盛大にされました。俵町教会では新しい聖堂や信徒会館を建て替えられ、平戸ザビエル記念教会では立派なルルドを建てられるなど、事業家であったようです。

平戸ザビエル記念教会のルルド完成と同時に東京カトリック中央協議会へ。「そこに行く、将来、司教様になるだろうと噂していたんです。三末司教様もそうだったように。」

「当時、前田神父を尋ね、東京に一泊巡礼に行ったことがなつかしく思えてきます。ゆっくりできないけれど、今日はせっかくなのお祝いだから楽しみにしてきました。」

④お告げのマリア修道会平戸修道院

シスター滝下・シスター松本・シスター尾上(右から順)



「前田司教様は事業を進めていく方でした。ルルドや駐車場を作るなど、色々なことをされました。信者への呼びかけ方が、とてもお上手。けれど信者からは、説教が下手な神父様(佐世保)とか、歌が下手な神父様(平戸)とか言われたみたい。(笑)」

俵町教会で、高校の同級生である歌手の前川清さんと親交を深め、大ファンでよく前川さんの歌を歌っておられたようです。「宴会、レクレーション、

運動会、祭りなど、にぎやかなイベントがお好きな方で、そのような時、前川さんになりきって、ノリノリで歌う明るく楽しい方です。」

「いつでも誰にでも、親身になる優しい方です。だから、これから長崎教区は寂しくなります。でも広島教区の方には、そんな司教様だから安心してくださいます。」



皆様から温かいお祝いメッセージをいただきました

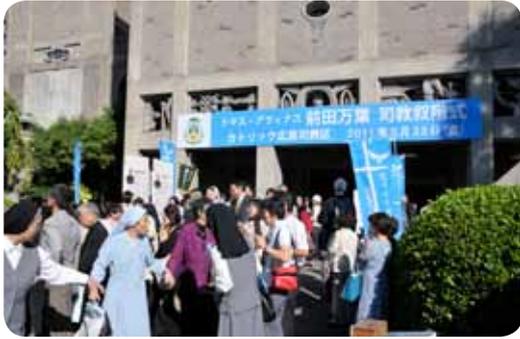
大聖堂入口に設置されたメッセージボードに、参列された皆様から前田司教様へ温かいメッセージを書いてもらいました。一部を紹介します。

☆☆☆☆
「おめでとうございませう。」

池田トシ子様・三末久子様・川渕つ子様・藤沢アキナ様(宝亀教会)

「お母様がベッドからお祈りしていますとのことでした。」

今村様(田平教会)



世界平和記念聖堂 正面の様子

「ホントにおめでとう。」

お父さんからは中学校で三年間教えてもらいました。仲知教会から島本司教様として前田司教、ホンナコテ、コガンうれしかことなかばい、オットンがことたのむばい。」

☆☆☆☆
浜口如安様(早岐教会)

「烏帽子教会はとも少なくなりましたが、まだ頑張っています。司教様が大切にして下さった教会ですから、これからも大切にしていきたいです。」

糸永まりこ様(烏帽子教会)

☆☆☆☆
「おめでとうございませう。これからも頑張ってください。応援しています。」

☆☆☆☆
前田萌様(姪)

「司教様と広島教区に豊かなお恵みが注がれますようにお祈りいたします。」

☆☆☆☆
高田康信様(松山教会)



「広島教区に移られても仲知の故郷は変わららずに、いつでも待っています。ご活躍をお祈り申しあげます。」

山田照子様

☆☆☆☆
(横浜教区厚木教会)

「東京のシスターたちを代表して、特にローマ在任のシスター谷口も含めて、心よりお慶び申し上げます。同時に、これからも聖体の前で祈り、取り次ぐ使命を司教様のご意向でお捧げいたします。神の民と共に、神に感謝。」

内野礼子様

☆☆☆☆
(師イエズス修道女会)

「広島教区の更なるご発展と新司教様のご活躍をお祈り申し上げます。」

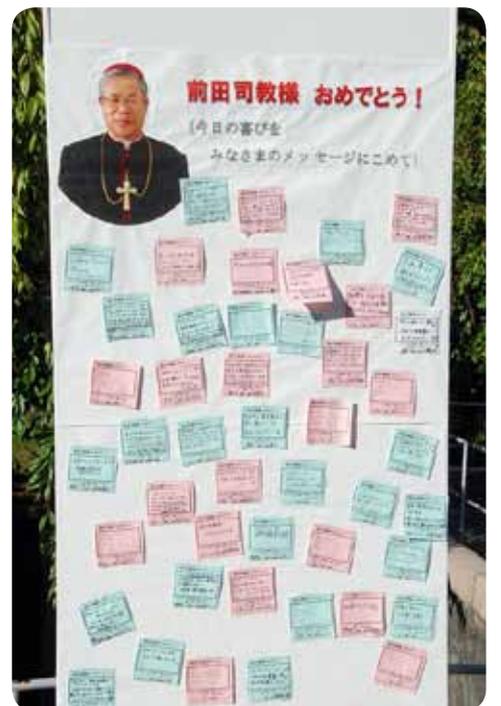
中野美枝子様

☆☆☆☆
(鹿児島教区母間教会)

「岡山教会にも遊びに来て下さい。そして色々教えてください。」

☆☆☆☆
山内唯様(岡山教会)

「徳山教会より二十七名でお祝いに参りました。音楽奉仕の一人として、エリ



メッセージボード

ザベトの卒業生として、これからも音楽で司教様とつながります。」

☆☆☆☆
野村様(徳山教会)

「今日は、エボシの兄弟たちとこの式に教区民として参列できたことを感謝しています。」

糸永小夜子様

☆☆☆☆
(北若山教会小野田修道院)

「これからもできたらよろしくおねがいします。がんばってください。」

☆☆☆☆
森淵純玲様(福山教会)

「私たちも五島から生まれたのを誇りに思います。」

大口様・中村様

☆☆☆☆
(幟町教会)

トマス・アクィナス前田万葉司教プロフィール

- 1949年3月3日生(62歳)
- 長崎県南松浦郡
- 新上五島町仲知に生まれる
- 1975年3月
- サン・スルピス大神学院 卒業
- 1975年3月19日
- 長崎教区司祭として叙階される
- 福江教会助任
- 1976年3月 浜協教会主任
- 1980年3月 宝亀教会主任
- 1988年7月 俵町教会主任
- 1998年4月 田平教会主任
- 2001年4月
- 平戸ザビエル記念教会主任
- 2006年4月
- カトリック中央協議会事務局長
- 2011年9月23日
- 広島教区司教叙階

広島司教区
平和行事実行委員会

2011 平和行事

二〇一一年平和行事を振り返って

平和行事担当司祭 後藤 正史 神父

二〇一一年平和行事「未来 望が与えられるよう、平和への責任二〇一一」が八月の源である神に祈り求め五日（金）・六日（土）・九日（火）の三日間、実施されました。行事の中で、又は毎日のように飛び込んだ五日（金）、テーマ『証』できて、私たちが不安に陥

一九四五・二〇一一」とされます。放射能をまき散らしたシンポジウム、および、す福島原発崩壊は『起きた』分科会（シンポジウムを受 天災ではなく、人間の手にけての分かち合い・被爆者 よって『引き起こされた』証言・講演）が行われました。人災というのが正確な表現です。

今年の四旬節三日目の 黒い雨（死の灰を含む）二〇一一年三月十一日、東 日本大震災、そして福島原 発大崩壊。犠牲者の方々に 永遠の安息が、また被災者 の方々には立ち上がる力と希



平和行進
(平和記念公園から世界平和記念聖堂まで)

はあり得るかという根本的、倫理的な課題を突き付けられました。私たちがどれほど原発に無関心であったか、また物事を識別する力に欠けていたか、胸を打たずにはおられません。原発は原子力の平和利用、（安心・安全・クリーン）と、温暖化防止という宣伝文句に惑わされ、識別を怠ってきた事、また原子力（核）とは共存できないことを大きな代償を払って、今回の原発事故を通じて教えられました。

人間の尊厳を踏みにする核分裂エネルギーの凶暴さを知ったヒロシマ・ナガサキとのつながりの中で、（フクシマ）をどうとらえていくかは、私たちキリスト者にとつての大きな責任であり、世界が注視している事柄です。

「広島を心に刻むことは、核戦争を拒否することです」というメッセージをさらに深める状況に、すなわち、《広島を心に刻むことは、核（戦争・原発）を拒否することです》ということ。『広島を心に刻むことは、核戦争を拒否することです』という

むことは平和への歩みを起こすことです」のメッセージにも私たちは励まされま す。みんなで心底、真のライフライン（いのちのつながり）を思いめぐらし、私たちが共に平和のために働くにはどのような支援の態勢（心のあり方を含め）がふさわしいのか、また私たち自身のライフスタイルそのものについても思いめぐらし、聖霊の導きのもと、「平和責任」を果たすために、今後の方向性を分かち合っていくましよう。

平和アピール（一九八二）三十周年の記念すべき今年、列福された教皇ヨハネ・パウロ二世の取り次を願いながら、広島に集いましよう。

今年の平和行事は、『証』一九四五・二〇一一」と題し、東日本大震災、そして福島原発大崩壊と、未曾有の大災害に遭遇された方、また、被災地でボランティアとして活動された方、そして六十六年前、十二歳で被爆され、ご両親はじめ五人の家族を家もろとも失くされ、その後、「平

広島司教区ホームページ : <http://hiroshima.catholic.jp/>

和を願う会」の活動の中で、『核廃棄物・海洋投棄反対署名』運動など原子力発電の存在と向き合ってこられた方の証言をもとにシンポジウムが開催されました。その後、分科会としてシンポジウムを受けての分かち合いが行われました。

- ◎シンポジウムの発題者
①山口裕子氏（被爆者・職町教会信徒） ②大塚愛氏（ハイロアクシヨ ン福島原発四〇年実行委員会） ③江藤さおり氏（長崎教区信徒・災害ボランティア）

- ◎分科会のテーマ
①原発との共存はあり得るか ②三・一一からの問いかけ

※発題者三名の方の詳細なメッセージは広島司教区公式ホームページに掲載しております。



シンポジウム

東日本大震災支援

広島司教区災害サポートセンター 原田 豊己 神父

十月十一日をもって、最大の被災地である宮城県石巻市ですべての避難所が閉じました。

しかしながら、福島県原発被害もあり、復興への道のりは険しいものがあります。皆様からは、多くの支援をサポートセンターに届けていただき、現地に対して大きな支援をしてきました。

他教区からも評価されましたが、広島教区で雇用する形でいち早く長期ボランティアを仙台サポートセンターに派遣しました。教区内から多くのボランティアが現地で働きました。広島信望愛学園は、職員のボランティアを特別休暇とするなど支援をしています。山口・島根・広島信望愛学園は、避難してこられた方の入園料をはじめ保育料を免除するなど、来年度も継続します。

七ヶ月を過ぎた今、緊急援助から復興に向けた支援に切り替えをする時期にきています。その一つは、大阪教会管区として大船渡教会と近くに復興支援の設備を備えた「地域コミュニティセンター」的なるものを建設し、司祭・修道者・ボランティアを通じて近隣の避難所、フィリピン人共同体への支援を行うものです。(広島司教区からはギャ

リー神父が派遣されます)

これから皆様の支援をお願いしなければなりません。よろしくご協力ください。バザーなどの収益からの支援金をお願いいたします。

広島司教区災害サポートセンター・教区の振込用紙をご使用ください。

大阪教会管区プロジェクト.. 「本部事務局からのお知らせ 十月」を参照してください。

広島司教区災害サポートセンター収支報告 (4月1日～9月30日)

収入	献金	3,043,847
支出	支出合計	648,104
	事務運営費	4,150
	振込手数料	4,150
	旅費交通費	73,360
	支援費(派遣者の経費を含む)	570,594
	経費	430,000
	送料	3,580
	物資購入	137,014
繰越		2,395,743

広島司教区災害サポートセンターの情報は、毎週、広島司教区ホームページで配信しています。http://hiroshima.catholic.jp/

仙台教区サポートセンターと石巻ベースを訪ねて
 ナミユール・ノートルダム修道会
 カトリック東広島教会
 シスター三宅聖子

大洪水に見舞われた新潟から、八月二日仙台入り、仙台教区サポートセンターと石巻ベースを訪ねました。たった一日でボランティアができるわけでもなく、巡礼のつもりで訪ねました。幸いにも、広島教区から派遣されている二人のスタッフ、シスター山本と高濱さんにお会いすることができました。シスター山本は、石巻ベースの引越しの真最中でした。高濱さんは社会福祉協議会回りで外出し、忙しくておられませんでした。広島教区の長期派遣は、仙台サポートセンターで大変感謝されていきました。また、高濱さんには、海岸地域を案内していただき、空気に触れたいを嗅ぎ、津波の爪あととそのままのころの様子もお聞きすることができました。

私たちの東広島教会では、「広島教区召命祈りの集い」の当番教会として、広義の「召命」を取り上げ、大震災からの呼びかけはなんであるかを祈り分かち合いました。その後、何かしなければという思いが高まったのですが、教会としては、とりあえず祈りと募金で止まっているのが現状といえると思います。あまりにも衝撃的な出来事と膨大な情報に、手を出しかねているといったところかもしれません。共に生きるよう呼びかけられている大震災を風化させることなく、細々でも長く復興支援をし続けるために、私たちが取り組む何かを見つめるのに役立つことを

願って、たった一日の訪問からですが、その中でも感じたこと考えたことをいくつかあげてみます。

一・新潟と仙台・石巻で見たこと

①東日本は、本当に節電している。駅構内、コンコース、ホテル、商店、コンビニ.....

②変わらない日常がある。

通学、通勤、買い物、カラオケ、美容院、ネイルサロン、旅、プロ野球.....

③変わらない日常のすぐそばに被災者がいる。被災地がある。

ショッピングセンター前の仮設住宅、「がんばろう宮城」「がんばろう石巻」、

商品のない商店、消防隊、自衛隊.....

④東日本の教会では、被災地がより身近にある。

教会の中心テーマ「日曜学校の子どもフリーマーケット.....」

二・特に必要だと考えたこと

①長期派遣スタッフの支援

まず、短期のボランティアは、短くは1日から来ていますが、シスター山本や高濱さんのような長期派遣のスタッフは少ないということ、負担は日に日に増しています。

また、被災者もひとくくりにはできず、様々な人がおり、様々な個別の状況があります。援助を受ける手続きの煩雑さなどいらだつことも多いのです。行政担当者も終わることのない事務作業に追われ、満足な支援が受けられない被災者との対応に追われます。

当然のことですが、震災から日がたつにつれ、被災者も行政担当者も疲れ、イラつきが出るようになってきています。そして長期のスタッフは、その両方と関わり活動して

ます。さらに「もつと何かしなければ」「できることは何でも」と思いがちな短期のボランティアとの意識のずれからもストレスが生じます。

長く継続的な支援が必要なることを考えると、長期派遣スタッフには休息の機会や場が必要だと思います。ホテルに泊まるなどして一人になる機会や広島に帰る機会が必要です。私たちに、被災者に感謝でいっぱい「いい人」を求め、スタッフに犠牲的精神を求める気持ちどこかあるならば、私たちの意識を変革しなければなりません。私たちの後方支援は、被災者に直接役立つことだけでなく、スタッフを支えることが大切だと強く思いました。

②広報活動

正直なところ、訪問するまでは、もつと現地の様子や活動の様子を知らせてほしいと思っていました。私の周りでも、何かしたいと思ってもよく分からないという声を聞いていました。しかし、スタッフは、現地での活動で手いっぱい、レポートをといわれてもこまめに情報を送る余力がないのが現状のようです。双方が気にながら繋がりにくいのです。ボランティアの数が減少傾向にあると聞いています。石巻市では、夏休みに千人のボランティアを予定したのですが、実際には六百程度しか確保できなかったそうです。「どうしていいかわからない」と「忘れられているのでは」「わかつてもらえない」とつなぐ広報活動がより重要になってくると思えました。

③広島司教区災害サポートセンター被災地と広島教区をつなぐ要です。「支援がほしい」と「もつと知りたい」「何かしたい」「ボランティア

(八面へ続く)

地区便り

岡山・鳥取地区



岡山教会聖堂内

八月十五日、岡山教会の中高生主催で、チャリティコンサートが開催されました。中高生たちによるピアノやエレクトーンの演奏、自作の詩の朗読なども披露。東日本震災の被災地に、教区からボランティアに行った大学生のスライド報告もありました。集まった募金、四万五千円は、仙台教区に送らせていただきました。

山口・鳥根地区

地区大会開催！

十一月二十三日(水)十時～十五時半、山口教育会館にて。テーマ・あなたにとって「新しい創造とは」 基調演説・神田裕神父(大阪教区本部事務局長)

地区大会にあわせて山口天使幼稚園で「子供大会」も開催されます。テーマは、「共に生きる」～悲しみから希望へ～

*問い合わせ先―どちらも山口・鳥根地区事務局。

養成関係

九月十七日(土)～十九日(月)にかけて、具正護神父(上智大学神学部准教授)の「典礼研修会」、十月二日(日)には、雨宮神父による「聖書力」の特別講座を山口で実施した。

十一月十二日(土)～十三日(日)、宗像黙想の家にて「信徒の神学」。十九日(土)には「祈りの体験2の④」が地区事務局で行われる。

12月2日(金)

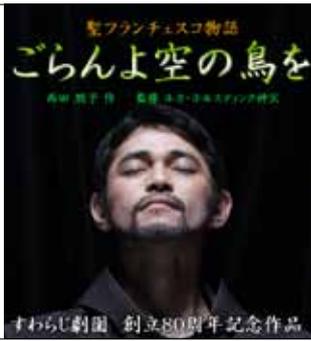
開場 18:00 開演 18:30 広島市文化交流会館

チケット 教会団体割引 2,500円 小学生以下 1,500円

*チケットは、広島市内各教会、聖パウロ書院で販売しております。

主催：すわらじ劇団広島公演実行委員会

後援：カトリック広島司教区、カトリック中央協議会広島、カリタスジャパン、広島県、広島市、広島市教育委員会、中国新聞社



(七面の続き) アに行きたい」などの思いを受けとめ応える態勢にするために、サポートセンターに求められることを考えてみました。

- a. 現地の情報収集と広報
 - b. 長期派遣スタッフの支援
 - c. 具体的な後方支援の提示
 - d. 点の支援をつなぐ教区としてのネットワークづくり
 - e. 長期、短期ボランティアの募集・養成・派遣
 - f. カリタス・ジャパン、仙台教区をはじめ他教区との連携
- このような役割を果たすために、担当司祭と共に働くスタッフが必要であり、長く支援を続けていくためには体制強化がぜひ必要だと思えます。
- 三. 東広島教会での取り組みを考える(検討するための提案)
 - 長期派遣スタッフを支援する支援活動をする。
 - すでにつながりがある八木山教会(仙台教区)と連携して支援活動をする。
- 東広島と規模・ロケーションが似通っている八木山教会は、被災してないため、周辺の小教区を支援する立場にある。
- 子どもたち自身の取り組みを育てる
 - 地域の人たちに呼びかけ、協力して取り組む。
- 報告会、チャリティコンサート、バザー、慰霊祭などを、既にある地域とのつながりを強めながら、小さくても息の長い、顔の見える支援をめざして、私たち東広島教会も少しずつ動き始めようです。

JiCaRM広島便り

ベトナム語ミサのお恵み

幟町教会 山口 トウイ

おかげ様で今年四月以来毎月第四日曜日、幟町教会地下聖堂でのベトナム語ミサが定着してきました。福岡や大阪からベトナム人神父様をお招きしています。母国語で告解に与り、お祈りし、お説教を聞く安らぎの他に、私はベトナムの聖歌を歌う喜びに涙が出て

お恵みをいっぱい頂いた後の持ち寄りの食べ物を食べながらのランチタイムとおしゃべりはとても楽しいです。仕事や育児の悩みを分かち合い、情報交換出来る大切な時間です。そして、『また頑張ろうね!』と励まし合っています。



私たちの今後の課題は、もつと日本語ミサにも参加することです。ミサ後に日本人の皆様と交流して互いの文化を理解でき、生活相談に乗ってもらえる機会です。皆様、これからもどうぞよろしくお願ひします。

きます。隣の友達が「どうしてそんなに泣くの?何か悪い事をしたの?」と心配

教区練成会

「平和の使徒となろう～社会における信仰の証し～」

8月8日～10日

山口県防府教会で広島教区練成会が行われました。今年は22名の子どもたちが参加してくれました。この度の練成会では、テーマである～社会における信仰の証し～のもと、子どもたちは自分たちの生活の中でどのように信仰を示していくことが出来るのかを考えました。

1日目には、殉教者であるダミアンの話を聞き、自分に出来る信仰の形を探したようです。また、視覚障害をお持ちの松田さんの講話を聞き、盲目の体験をして沢山のものを得ることが出来たようでした。

2日目には、ザビエル記念聖堂を訪れ、クリスチャン記念館ではザビエルのことや1991年9月に焼失してしまった旧聖堂のことについて学びました。またザビエル記念聖堂で、信徒の皆さんと一緒にミサを受けました。お昼からはプールに行き、皆とても楽しそうに遊んでいました。夕の祈りでは金神父様による聖体讃美式が行われ、子どもたちはほとんどが初の体験だったようでとても興味深そうにしていました。

子どもたちはこの3日間でそれぞれの信仰の形を考えることができ、また多くの友達と触れ合う中で多くのものを得たようでした。



練成会

青少年情報センター
岸井拓也

教区青年大会

「Take Action 全ての人が一つになるために」

8月27日～28日

青年大会に参加して感じたことが2つあります。

1つ目は友人との繋がりを改めて感じられたこと。私には、2月に横浜で行われたNWMで仲良くなった友人がいました。その人は大阪の人だったのですが、今回わざわざ下関まで青年大会に参加するために来てくれました。遠くから来てくれたことがすごく嬉しかったのと、教会行事はそれだけ価値のある大切なものなのだと感じました。

2つ目は、中井神父様と林神父様の講義がとてもよいものであったこと。中井神父様は、神父になるにあたっての迷いと決意に至るまでを、自分の感じたことや神様との対話をもとにとってもリアルに話してくださいました。中にはかなり赤裸々で笑いを誘う場面もありましたが、神父様の迷いがまるで自分の迷いであるかのように共感でき、臨場感にあふれていてすごく面白かったです。林神父様は、講義する姿そのものが今回のテーマ「Take Action 全ての人が一つになるために」であるような人でした。心の出入り口は常に全開と言う感じで、新しい物に臆せず、いつもアクションを起こしている、そんな神父様にとっても感銘を受けました。そして、自分もアクションを起こしていこうという気持ちになれました。

1泊2日の短い期間でしたが、収穫の多い大会になりました。
観音町教会 飯田知香



青年大会

青少年の活動
2011 Summer

第21回ネットワークミーティング in 名古屋

9月17日～18日

名古屋で開催されたネットワークミーティング(以下NWM)に参加してきました。

NWMというのは、全国のカトリックの青年や司祭などが集まり、今抱えている問題や信仰を分かち合い、交流を深めていく場であり、いろいろな地域の青年やその活動を知り情報を得る場として、年に2回、全国各地で開催されている集まりです。今回も、北は北海道から南は鹿児島まで、100人を超える青年が集まりました。

自分は今まで何度も参加をしているのですが、毎回この集まりで知り合い、この時ぐらいしか会えない友人が大勢います。いつも顔を合わせた瞬間に会ってなかった時間など無かったかのように話がはずみます。初めて会った人も、以前に会った人も、住んでいる場所も年齢も違うのに、ただ同じカトリックの信者であるというだけで、あっという間に友人となることができます。まさに隣人であり兄弟であるという言葉を実感できる集まりです。

自分は、この集まりに参加するたびに力をもらっています。このNWM、次回は来年の3月に東京で、来年の9月には広島で開かれる予定です。興味をもたれた方、ぜひ一度参加して見られてはいかがでしょうか?日本中の若者や神父様と話すなかなかない面白い機会ですよ。
廿日市教会 岡本大吾

たくさんの出会い

～フィリピン・インファンタ教区訪問～



NWM

8月17日～23日

英語もまともに話せないし人見知りの私は、最初不安ばかりでした。しかし、だんだん相手のことが知りたくて、積極的にコミュニケーションをとれるようになりました。ちょうど誕生日が重なっていた私は、何回もバースデイソングを歌ってもらいました。あんなにもたくさんの人にお祝いされたのは初めてで、こんなにも幸せでいいのかと思うほど幸せでした。本当に嬉しかったです。

そして貧富の差を目の当たりにしました。同じ国にいて、食べ過ぎて苦しい人もいれば食べるものがなくて苦しんでいる人、今日生きるのが精いっぱいな人もいます。こんな子供の私には何もできないのかと思うと、悔しくて涙がでます。でも一番泣きたいのは辛い本人たちだと思います。

今回私はこんなにも狭い世界で生きていたのだと改めて感じました。今までよりは視野が広くなり、少しだけ成長できたと思います。

ホストファミリー、あたたかいフィリピンの人達、韓国の神父様、めぐり合わせてくれた神様に感謝します。本当にありがとうございました。
東広島教会 山澤寛実

ワールドユースデー
inマドリッド

八月十六日〜二十一日

World Youth Day (以下 WYD) は、一九八四年に当時の教皇ヨハネ・パウロ二世が、青年たちにローマへと集うように呼びかけたことから始まりまし

その後、教皇庁信徒評議会が主催となり、二〜三年に一度世界各地で開催されてい



教皇歓迎ミサ

ます。

わたしは、サンチャゴ巡礼をしてから本大会に行く日程で参加しました。

百キロの巡礼は想像以上にきつく、最後はよれよれ

になりましたが、無事にゴールすることができました。一緒に歩いた仲間の心遣いに何度も励まされたことは忘れません。

本大会中は、とにかく人の多さに圧倒されました。国ごとにおそろいのTシャツを着たり、帽子を被ったり、町は常にお祭りのようでも賑やかでした。そんな中で、カテケージスや分かち合い、ミサなど、静かに過ごす時間もありません



サンチャゴ・デ・コンポステラ

た。自由行動では、美術館に行つてゲルニカを見たり、町中にいる参加者と交流をしたり充実していました。

原点

山口教会助任イエズス会

柴田潔神父



山口教会に赴任して半年が経ちました。普段は教会でのミサなどの奉仕、カルメル会でのミサ、そして天使幼稚園での仕事をしています。また、この半年の間で、宮城県の塩釜市でのボランティアに二回行ってきまし



<70>

た。どれも、これまでの司祭養成の時期には得がたい体験です。今、一番心掛けていることは、一つ一つの奉仕に時間と情熱を注ぐことです。ボランティアから帰ってきてそう考えるようになりまし。毎日二〜三リットルの汗をかいて黙々とヘッドク掻きや海辺のゴミ拾いをするうちに、自分が変わっていくのを感じまし。司祭を志してからの私

は、勉強に馴染まないコンプレックス、試験や論文などへの恐れ、上手く語れないもどかしさを抱えてきました。けれども、暑い中、黙々と労働をする中でわかまかりが晴れていきまし。ベースキャンプのリーダーは「神父さんに言うのもなんですが、百の説法より捨て身の努力が大事だ」と教えてくれました。全身全霊を注いで被災地を片づける彼の姿が、一番大切なのは情熱を注ぐで、上手く語れるかは二の次だということをお分らせてくれまし

た。情熱を傾けていること、汗をかいていることが、人をキリストと結ぶ原動力になるのだと思います。上手くやろうとか、適当なところで済ますことよりも、ありったけのものを注ぐ司祭でありたいと思つています。私は、十二年間のサラリーマンを経て司祭を志すようになりました。当時感じていた「教会がこうあって欲しい！」という思いと「被災地の人がどれほど大変か！」という思いを胸に抱きながら奉仕していきたいと思つています。

トゥアン神学生 助祭叙階式

日時：11月19日(土) 14時〜

場所：カトリック翠町教会

司式：トマス・アクィナス前田万葉 司教

受階者：ヨハネ ゲェン・クァン・トゥアン (広島司教区神学生 ベトナム出身)

これからも意識し続け、カトリック信者である自分と向き合っていきたいと思つます。

幟町教会 大澤恵李